

職名 学長	氏名 木村 清孝
-------	----------

研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
初期中国華嚴思想の研究	単著	昭和52年10月	春秋社		
中国仏教思想史	単著	昭和54年11月	世界聖典刊行協会		
華嚴経	単著	昭和61年11月	筑摩書房		
中国華嚴思想史	単著	平成4年10月	平楽寺書店		
華嚴経をよむ	単著	平成9年5月	日本放送出版協会		
東アジア仏教思想の 基礎構造	単著	平成13年3月	春秋社		
仏教の思想	単著	平成17年3月	放送大学教育振興会		
華嚴五教章・原人論	共著	平成元年6月	中央公論社	小林円照	5頁-235頁、311頁-359頁
東アジアにおける佛教の 変容、変成、変質、復帰	共著	平成22年5月	仏教とは何か 昭和堂	上田閑照・気多雅子編	106頁-126頁
華嚴五教章・金獅子章・ 法界玄鏡	共著	平成23年4月	大蔵出版社、第1冊	吉田叡禮	17頁-195頁、279頁-302頁
論文					
『法界観門』撰者考	単著	昭和44年3月	宗教研究、195		
中国仏教における 孝倫理の受容過程	単著	昭和45年3月	東方学、39		
元曉の關提仏性論	単著	昭和56年6月	古田紹欽博士古希記念論集、 創文社		
信行の時機観とその意義	単著	昭和60年	日本仏教学会仏教学会、49		
<i>The Self in Medieval Japanese Buddhism : Focusing on Dogen</i>	単著	July, 1991	Philosophy East and West, vol.41, no.3		
<i>The Self and the Individual in Chinese Buddhism</i>	単著	Jan, 1994	ACTA ASIATICA, vol.66		
日本僧道元の三教調和論 批判	単著	1995年7月	佛教與中國文化國際學術會議論文 集, 下		
偽経『八陽経』の成立と 変容	単著	平成9年5月	東方学論集、東方学会		
真空妙有論の形成と展開	単著	平成12年11月	江島恵教博士追悼論集、春秋社		
「空」と「無」の間	単著	平成17年1月	日本の哲学、5		
<i>Huayan and Chan</i>	単著	2007年	Reflection Mirrors: Perspectives Huayan Buddhism	Imre Hamar (ed.)	221頁- 230頁
漢訳『菩薩十地経』考 同一系統の二経との比 較考察	単著	平成20年3月	国際仏教学大学院大学 研究紀要、12		
学会等および社会における主な活動					
平成3年4月～現在	日本印度学仏教学会理事				
平成4年11月～現在	日本宗教学会理事				
平成6年6月～現在	東方学会評議員				
平成10年6月～現在	比較思想学会理事				
平成7年1月～平成14年12月	国際仏教学会 (International Association of Buddhist Studies)				
平成14年7月～平成20年9月	日本印度学仏教学会理事長				
平成3年9月～平成12年8月	日本学術会議哲学研究連絡委員会委員				
平成5年1月～平成7年1月	文部省学術審議会専門委員				
平成10年1月～平成12年1月	同上				
平成14年1月～現在	函館少年刑務所教諭師				
平成15年11月～現在	「二十一世紀の智と実践フォーラム」(原名「二十一世紀の智と実践を考えるフォーラム」、略称FJC21)、代表				
平成18年3月～現在	日本学術会議連携会員				
平成20年4月～現在	仏教伝道協会理事				

所属 副学長・歯学科教授		氏名 前田 伸子		大学院における研究指導 担当資格の有無 「有」	
教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日		概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
医療人間科学 宗教学		2002年～ 2011年～		医療人間科学科学のブレ・ポストアンケートによる授業評価とともに学生に当該科目の問題点を抽出させた。新しく宗教学を統合科目として教育内容を充実させた。	
2 作成した教科書、教材、参考書		2001年～ 2000年～ 2000年～		図説口腔微生物学改訂 鶴見大学細菌学実習書改訂 口腔微生物学サイドリーダー改訂	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		2000年～2009年		SCRPFacultyアドバイザー	
4 その他教育活動上特記すべき事項		2004年～2010年 2009年3月		FD委員会主催WSの企画と開催 日本歯科教育学会主催WSタスクフォース	
研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
口腔微生物学 感染と免疫 第2版	共著	2008年	学建書院	梅本俊夫,小川知彦,前田伸子,高尾 亞由子,ほか	
女性歯科医師の働く姿； これからの女性歯科医師 へのメッセージ、これが 私の生きる道	単著	2008年	日本歯科評論68		174頁～176頁
う蝕予防に行かせるエビ デンス	共著	2009年	クインテッセンス出版	鶴本明久監著；荒川浩久、岸光男、 品田佳世子、田村達二郎、文元基 宝、 前田伸子	
口腔微生物学 サイドリー ダー第3版	共著	2009年	学建書院	前田伸子,大島朋子	
口腔微生物学 感染と免疫 第3版	共著	2010年	学建書院	小川知彦,前田伸子,高尾亞由子,ほ か	
義歯ケアの現状と展望 口腔生態系からみたデン チャーブラークと義歯洗 浄剤の使用法	共著	2010年	デンタルダイヤモンド	前田伸子,大島朋子,佐藤新,大久保 力廣,浜田泰三	162頁～168頁
ココア歯磨きに期待され る効果	共著	2010年	アポロニア21	前田伸子,大島朋子	62頁～63頁
アロマセラピー標準テキ スト臨床変 第9章 歯 科	共著	2011年	丸善株式会社	角田衣理加,大島朋子,前田伸子	
論文					
Bifidobacterium tsurumiense sp.nov., from hamster dental plaque.	共著	2008年	Int.Syst.Evol.Microbiol.58(1)	M.Okamoto,Y.Benno,K-P Leung, N.Maeda.	144頁～148頁
Determination of bacteria activity of antibacterial monomer MDPB by a viability staining method. Dental Materials Journal.127(1)145-148 2008	共著	2008年	Dental Materials Journal. 127(1)	S.Imasato,K.Ohmori,R.RB Russel,J.F.McCabe,Y.Momoi, N.Maeda.	145頁～148頁
Predominant Bacteria Recovered from a Periodontitis Site in a Hamster Model Rased by Silk-Ligature with Porphyromonas gingivalis Infection.	共著	2008年	Biosci.Biotechnol.Biochem. 72(5)	K.Hojo,A.Tamura,C.Mizogichi, D.Kato,T.Ohshima,N.Maeda.	1348頁～1351頁
A volume Evaluation of Dental Caries in a Mouse with the Use of the Micro-CT Scan	共著	2009年	Journal of Hard Tissue Biology 17(3)	Shimoda,S.,Ohta,M.,Mohideen,Y., Ohshima,T.,Maeda,N.,Kawasaki,K.& Asada, Y.	109頁～114頁
糖アルコール食品のう蝕 誘発性の評価、ならびに 口腔環境に与える影響。	共著	2009年	口腔衛生学会雑誌59(1)	東松修平,大島朋子,前田伸子	16頁～25頁

Relationship between Two Bacterial Species and Oral Malodor.	共著	2009年	Tsurumi Univ. Dent. J. 35(1)	Kakuta, E., Ohshima, T., Nakagawa, Y., & Maeda, N.	1頁～8頁
植物精油の口腔微生物に対する抗菌性およびバイオフィーム形成抑制効果の検討	共著	2009年	歯科薬物療法 28(1)	角田衣理加、大島朋子、前田伸子	1頁～10頁
In Vitro Evaluation for Anti-microbial Efficacy of Iontophoresis against <i>Enterococcus faecalis</i> , <i>Candida albicans</i> , <i>Pseudomonas aeruginosa</i> and <i>Bacillus subtilis</i> .	共著	2009年	Biosci. 51(2)	T.Oyama, M.H.Nakano, T.Arai, D.Kato, N.Maeda.	91頁～95頁
ココアパウダーの歯面着色除去効果と歯磨剤への応用	共著	2009年	日歯保存誌 52(3)	平尾千波、後藤美紀子、池島巖、大島朋子、前田伸子、他	255頁～263頁
Review 'Bacterial Interaction in Dental Biofilm Development'	共著	2009年	J.Dent.Res 88(11)	Hojo.K, Nagaoka.S, Ohshima.T, Maeda.N.	982頁～990頁
Potential Antagonistic Activity of <i>Bifidobacterium adolescentis</i> against <i>Porphyromonas gingivalis</i> in a Hamster Periodontic Model.	共著	2009年	J.Oral Biosci. 51(4)	S.Nagaoka, K.Hojo, T.Mori, D.Kato, T.Ohshima, N.Maeda.	224頁～229頁
口腔常在真菌 <i>Candida albicans</i> の病原性とは	共著	2009年	日本義歯学会誌1(1)	細井紀雄、米山喜一、諸熊正和、大島朋子、前田伸子、中川洋一、水野行博	14頁～17頁
難治性根尖性歯周炎から分離される微生物に対する各種根管消毒剤の抗菌効果の検討.	共著	2010年	日歯保存誌 53(1)	加藤大輔、小山隆夫、中野雅子、新井高、前田伸子	58頁～65頁
口腔カンジダへ及ぼす唾液分泌機能低下の影響	共著	2010年	歯科薬物療法 29(1)	山近重生、山本健、山田浩之、前田伸子、中川洋一	162頁～168頁
Biofilm formation by microorganisms isolated from refractory apical periodontitis.	共著	2010年	鶴見歯学 36(2)	中野雅子、山崎繁夫、K.P.Leung、前田伸子、新井高	79頁～87頁
Mapping of a gene influencing initial dental caries susceptibility to chromosome 11.	共著	2010年	Pediatric Dent.J 20(1)	Ohta.M, Ohshima.T, Nishimura.H, Maeda.N, Asada.Y.	84頁～90頁
Antibacterial effects of cocoa on periodontal pathogenic bacteria.	共著	2011年	J.Oral Biosci. 52(3)	Hirao.C, Nishimura.E, Kamei.M, Ohshima.T, Maeda.N	283頁～291頁
その他					
学会等および社会における主な活動					
平成12年4月～	日本歯科薬物療法学会理事				
平成16年4月～平成22年まで	IADR日本支部会(JADR)理事				
平成19年	第55回IADR日本支部会(JADR)学術大会長				
平成16年～	日本歯科教育学会教育能力開発委員				
平成19年から2期	歯科国家試験委員				
平成19年8月～	歯科衛生士国家試験委員				
平成19年	科学研究費委員会専門委員				